

生体病態学Ⅱ

授業概要

さまざまな炎症性疾患について、それぞれの病態生理や原因、発症機序を個体レベルから分子レベルにいたる各層にまで広く学ぶ。さらに、それらの診断法、治療法、対処法、予防法などを最新の研究結果や知見から学習する。

担当教員

和田孝一郎（主担当）	教授・薬理学
兒玉達夫	准教授・眼科学

一般目標 general instructional objectives

炎症性疾患の治療法、対処法、予防法を習得あるいは確立するために、炎症の発症メカニズムと病態生理を学習する。

行動目標 specific behavioral objectives

1. 炎症の概念と発症機序を分子・細胞レベルで概説できる。
2. 各種の炎症性病変（循環器系、呼吸器系、結合組織系、眼・視覚系、等）の病態生理と発症メカニズムを概説できる。

成績評価の方法

すべての講義および演習が終わった後、規定の出席率(2/3以上)を満たした学生に対し、課題を呈示し、レポートの提出等を指示する。そのレポート等を行動目標の達成度を主眼に評価する。

使用テキスト・参考文献

適宜、資料を配布する。

教育内容（講義および演習）

回	授業内容	担 当
1	炎症学概論：組織の破壊と修復	和田孝一郎
2	急性炎症と慢性炎症；炎症細胞メディエータ、サイトカイン	〃
3	急性炎症の病態生理薬理学： NSAID	〃
4	急性炎症の病態生理薬理学： COX-1 と COX-2	〃
5	炎症の病態生理薬理学： ステロイド	〃
6	慢性炎症と線維化： Collagen Diseases を再考する	〃
7	慢性炎症と線維化： 各種疾患の薬物治療①	〃
8	慢性炎症と線維化： 各種疾患の薬物治療②	〃
9	眼科領域における炎症性疾患：リンパ増殖性疾患	兒玉達夫
10	学会・研究会参加による最新情報の入手①	〃
11	学会・研究会参加による最新情報の入手②	〃
12	疾患モデル動物を用いた病態発症機構の解析と薬物治療学	和田孝一郎
13	慢性炎症性疾患の病態と発症機序①	〃
14	慢性炎症性疾患の病態と発症機序②	〃
15	慢性炎症性疾患の病態と発症機序③	〃